

(別紙)

令和5年度(令和4年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業 (施設等に対する導入支援) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

埼玉県

【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジンショウトクカイ
法人名	社会福祉法人聖徳会
フリガナ	ミヌマイン
事業所名	見沼園
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
障害者支援施設	
職員数(常勤換算数)【(従事者の1ヶ月の勤務時間)÷(事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週))にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
25.5 人	

(1) 主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: 移乗介護 排泄支援 入浴支援
 移動支援 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) 眠りSCAN 4台

(2) ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	1人あたり業務時間(C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換		0件		#DIV/0!	
	2 排泄介助・支援		0件		#DIV/0!	
	3 生活自立支援(※1)		0件		#DIV/0!	
	4 行動上の問題への対応(※2)		0件		#DIV/0!	
	5 その他の直接介護		0件		#DIV/0!	
間接業務	6 巡回・移動	2人	720件	8,640件	10分	720時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0件		#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0件		#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0件		#DIV/0!
		720件	8,640件	10分	#DIV/0!	

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B.ひと月当たり発生件数の算出方法

夜勤者2人による夜間利用者訪室回数
6回×10分=60分(利用者1人に要する訪室時間が60分)
60分×4人(対象利用者)=240分(4時間)(特に見守りが必要な利用者4人に要する訪室時間 1日の合計時間数)
240分×1か月(30日)=7,200分(120時間)

<※2>D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

処理にかかった時間の合計÷発生件数

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	1人あたり業務時間(C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換		0件		#DIV/0!	
	2 排泄介助・支援		0件		#DIV/0!	
	3 生活自立支援(※1)		0件		#DIV/0!	
	4 行動上の問題への対応(※2)		0件		#DIV/0!	
	5 その他の直接介護		0件		#DIV/0!	
間接業務	6 巡回・移動	2人	240件	2,880件	10分	240時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0件		#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0件		#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0件		#DIV/0!
		240件	2,880件	10分	#DIV/0!	

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B.ひと月当たり発生件数の算出方法

夜勤者の利用者訪室回数
2回×10分=20分
20分×4人=80分(1.3時間)
80分×30日=2,400分(40時間)

<※4>D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

処理にかかった時間の合計÷発生件数

年間業務時間数想定削減率(%)

66.7%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

導入前は利用者の状況に関わらず居室を定期巡回し睡眠状況を確認していたが、眠りSCAN導入後は利用者状況をPCモニターやモバイル端末で一括見守りが可能となった。これにより必要なタイミングを中心とした訪室に変更し無駄な動きを避けることができたことから、夜勤者訪室業務が約66%の削減につながった。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

眠りSCAN導入により利用者の睡眠状態をモニターで把握できるようになり、職員の訪室回数を減らすことができた。それにより夜勤職員の業務量軽減はもちろんだが、訪室時の無駄な扉の開閉がなくなったため利用者の睡眠の質の向上につながった。また、離床通知の活用により職員が移動介助のタイミングを捉えることができるため、利用者の転倒リスクの軽減にもつながっている。さらには、利用者の呼吸・心拍のデータ蓄積にて、体調変化にいち早く気づき、医療に繋げることも可能となった。これらが夜間帯業務の効率化および心理的不安軽減に繋がり、職員から好評を得ている。

(5)今後の課題

日中活動と睡眠の相関関係を知り、活動内容が睡眠に与える影響を理解し、日中活動プログラムの改善につなげる。

(6)気づき等について

・決まった時間に行っていた訪室が、利用者の眠りの妨げにつながることがあると判明した。ようやく眠りについてた利用者や、眠りが浅い利用者などはドアの開閉音だけでも起きてしまうので、無駄な訪室を避ける重要性に気付くことができた。
・睡眠状況が良好であると思っていた利用者が、眠りSCANの利用にて実際は芳しくないと判明したことにより、日中の体調管理の見守りの必要性を確認することができた。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	無
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円/月)	
職員の質上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。